（様式3－2）調査研究活動記録票（先進地視察又は現地調査に要する経費）

嬉野市議会議員　　宮崎良平

開催月日	令和5年2月13日（月）
開催時間	13時～17時
開催場所	茨城県境町役場、自動運転遠隔監視センター
主催者	茨城県猿島郡境町391－1
調査の目的	境町が進める地方創生と自動運転バスについて
調査先担当者	境町町長　橋本正裕氏
内容・結果等	目的　嬉野市は令和3年8月に「未来技術社会実装事業」が採択され、自動運転などの未来技術を活用した事業を計画段階ではあるが展開されている。そのような中、全国でも先進地とされ、すでに自動運転バスを運行されている茨城県猿島郡境町の現況について調査を行った。 調査内容　2020年1月に議会で予算承認を受け、全国初の取り組みとしてNAVYA　ARMA（自動運転車両）を3台導入し、町民試乗会等を経て、同年11月町内運行をスタート。運行しながら実証を重ね、住民の要望に合わせ現在第2ルートで運行されており、バス停の随時追加、延伸等、5年後の未来が「誰もが生活の足に困らない町」を目標に進められている。また運営コストはふるさと納税と補助金の活用で町の負担は現在0で運営されている。運行から2年無事故であり、国からも安定的な運行が認められており、買い物や塾の送迎、免許返納者の移動手段等、地域での効果もかなり大きいものがあるが、それよりテレビ、メディア等での放映、掲載により企業誘致にも波及し、また走行実績とデータ提供実績により法の改正まで影響を及ぼし、視察実績においても公共機関から民間企業、大学の研究機関まで様々で経済効果としてもおよそ7億円とされている。 感想　今回先進地へと自動運転バスの運行がどのようなものかということで視察に伺ったが、この人口約24,000人ほどの境町において、自動運転バスだけを語るにはあまりにも稚拙な考えだと改めさせられた。平成29年実質公債費比率、将来負担比率が北関東ワースト1位という財政破綻も想定される財政状況の中、抜本的な財政再建及び資金確保が求められる状況で、境町が決断したのは、職員の給与削減や、補助金のカットではなく、徹底的に無駄をなくし収入を増やす施策への転換である。当然追い風として「ふるさと応援寄附金」の大幅な増という計画的な背景もあるが、それを原資に稼ぐ町を作り出す民間企業的な発想による様々な施策展開に驚嘆した。ひとの創生、職員の育成、公共施設の維持管理、定住促進事業、企業誘致、教育、子育て支援、地域産業の活性化、そして公共交通における自動運転の整備等が、国の交付金、補助金、また民間の力を最大限活用しながら、事業一つ一つを単独の事業としてではなく、すべての事業が波及し繋がって好循環を生む仕組みとして形成されていることに感心した。わが市においても未来技術実装事業の自動運転バス運行事業が進められている中で、さらに大局的な観点から好循環を生む施策として進めて行っていただきたいと切に感じ、またこのような価値のある視察での学びを市政へと繋げていくことが私たちの務めだと感じました。

上記活動に要した経費

経費の内容	支払先	金額（円）
旅費	祐徳旅行株式会社（宿泊パック）	41,350
交通費	JR、モノレール、高速バス他	7,320
合計		48,670